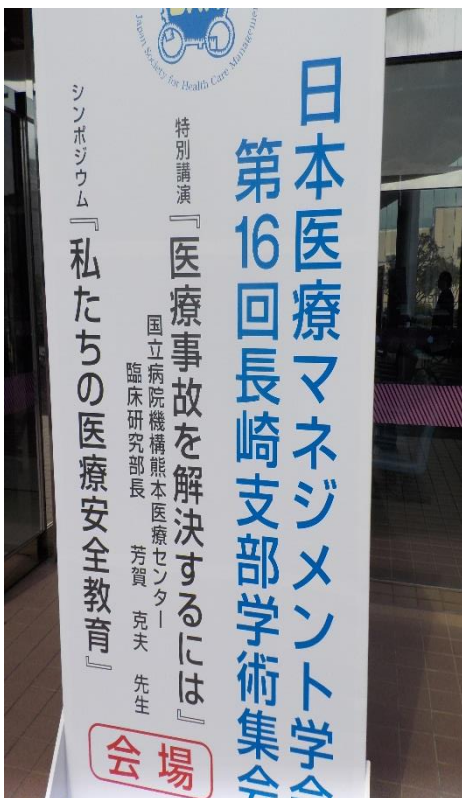


<日本医療マネジメント学会

第16回長崎支部学術集会に出席して>

国病久原会 会長 廣田典祥

”医療の質、組織の質、経営の質向上を目指して～もう一步先の医療マネジメント～”というサブタイトルのもと、今年2月6日、上記集会が大村市内の シーハットおおむら で開かれました。



世話人の当院副院長 藤岡ひかる先生の開会ご挨拶からはじまり、多数の県下の医療関係者が集まり、非常に内容の高い演題発表・シンポジウム・特別講演が行われました。

私が出席できたのは、医療安全①②、特別講演、シンポジウム「私たちの医療安全教育」でしたので、全体を俯瞰できませんが、私が国立病院に勤務した頃

の医療安全に対する姿勢を振り返ってみると、今日、格段にかつ確実に医療の知が集積され、意識化され、行動化されてきていることを感

じました。

当院からは、安藤理沙さん、赤澤史生さん、岡原継太さんの口演、シンポでは中村亜未さん、岩本早苗さんの発表を拝聴しました。いずれも、分かりやすい素晴らしい内容でした。

特別講演『医療事故を解決するには』（国立熊本医療センター 芳賀克夫先生）の「診療に関する予期せぬ死亡または損害」が生じた際の医療事故にどう対応するかについて、お話しがありました。医療法第6条、医療事故調査制度の方向性に沿い、具体的な取り組み、心構えを示されたと思います。

「最後にものをいうのは論理性である、医療事故で傷ついた遺族、医療者、病院幹部を癒すことができるのは、科学的な調査である」という結論でした。

私自身、国立病院に病院幹部として勤務したころ、困難な紛争事例を取り扱い、苦しかったことを思い出しました。芳賀先生の豊富な知見から集約された話に深い感銘を覚え、今昔の感、ひとしおです。

このように、専門分野に特化した学会とは異なり、専門用語を越えた多職種間の医療の対話が盛んに行われることは、医療の大きな進歩、もう一歩先への前進につながっていると思いました。

藤岡副院長さんはじめ、当院全体で、この集会を企画・運営され、立派な成果を修められたことに心より敬服しております。大変勉強になりました、有難うございました。